
夏休みの思い出 ～ケーブカナベラル編～

関村俊介

登場人物

妹 兄

兄と妹。家のダイニングで喋っている。

妹 おばさんが突然、車でうちに来てさ。どこ行くのかもわからないまま乗せられてさ。ついたところが空港でさ。私は、飛行機見れたのが嬉しかったんだけど、兄ちゃんはなんか不安そうな顔してたんだよ。兄 そうだった？

妹 うん。それで、なんか私まで不安になってきたところでき、飛行機に乗れって言われて。子供だったから、逆らえなかったけど、めちゃくちゃだよ。お笑い芸人じゃないんだからさ。

兄 そうだよ。

妹 や、今思えば、行けてよかったけどさ。友達と遊ぶ予定とかもあったわけじゃん。

兄 冬休みだったもんね。

妹 …夏休みだったよ？

兄 え？

妹 夏休みだった。

兄 …あ、そっか。あれだ、南半球だから、向こうは冬だったんだ。

妹 ううん。アメリカだから行ったの。北半球。

兄 …でも、北のほうだったから寒かったんだよ？

妹 ううん。南のほう。

兄 …南のほうだけど、その年は、異常気象で寒かつ

妹 もうあきらめなよ。寒くはなかったんだよ。暑かったんだよ。絶対冬とは間違えない、夏だった。兄
ちゃん、もしかして覚えてないの？

兄 ヒサエ。

妹 なに？

兄 あんな経験、滅多にないんだから。忘れるわけないじゃん。

妹 忘れてそうだから、言ってるんだよ？

兄 忘れてないって。

妹 夏休みの思い出なのに、冬休みだと思ってるのはだいぶおかしいよ？

兄 そっちが間違ってるんじゃない？

妹 はあ？

兄 ヒサエの記憶のほうが間違ってる可能性もあるよね。

妹 あのね。冬休みつてのは、大晦日が入ってたんだよ。

兄 それが？

妹 兄ちゃん、紅白歌合戦、大好きじゃん。

兄 うん。

妹 子供の頃から見逃したことないって、よく言ってるじゃん。

兄 そうだね。

妹 じゃあ絶対、夏休みじゃん。

兄 : 春休みだったってことは

妹 ないよ。夏だよ、クソ暑かったよ。

兄 でも。でも、証拠ないじゃん。

妹 え？

兄 全部、おまえが言ってるだけで、証拠がないでしょ。

妹 卒業文集持ってこようか？

兄 え？

妹 私の、小学校の卒業文集、部屋から持ってこようか？絶対にそこに、夏休みの思い出として、書いてるから。これは間違いない。この間、読んだばかりなんだから。

兄 そう。じゃあ夏休みだったんだね。そこは記憶違いしてた。

妹 そこ間違えるかねえ。

兄 そういうこともあるじゃん。

妹 おかしいでしょ。

兄 あれ？ちよつと待って。

妹 なに？

兄 おまえ、小学校の卒業文集とか読んだの？

妹 え？

兄 それも、この間、読んだの？その年で？

妹 年は関係ないでしょ。

兄 いやいやいや、え？読む？小学校の卒業文集。

妹 読んだっていいでしょ。

兄 なにがあったの？

妹 なにもないよ。

兄 なにもないのに、小学校の卒業文集、読む？

妹 読むよ。

兄 どういうこと？

妹 いや、どういうこと？、って言われても。

兄 あれって、もうすぐ死ぬ時にしか読まないやつだよ？

妹 そんなことないよ。

兄 心配になるよ。

妹 いいんだよ、そんなことは。

兄 よくないよ。もう読まないって約束して。

妹 なんでだよ、いいでしょ、読んだって。

兄 自分が小学校の卒業文集読んでる姿を想像してみな。

妹 …もう読むのやめるよ。

兄 よかった。

妹 話戻すよ。兄ちゃん、アメリカのどこに行ったのかもわかってないよね？

兄 俺、社会科は苦手だったからさー。

妹 それにしてもだよ。

兄 どこだったの？

妹 フロリダのケーブカナベラル。

兄 そんな長い名前覚えられないだろ、まだ子供だったんだから。

妹 そんなに長くないよ。

兄 だって、小学生の時でしょ。英語とかわかんないじゃん。フロリダとか、ケーブなんとかとか読めな

いじゃん。

妹 私は小学生だったけど。兄ちゃんは中学生だったからね。

兄 え？

妹 私、小5。兄ちゃん中2。だからケーブルカナベラルはしょうがないとしても、フロリダくらいは読めないとおかしい。

兄 俺、英語は苦手だったからさー。

妹 そういう問題じゃないと思う。

兄 細かいことはあんまり覚えてないよ、子供だったんだから。

妹 あんまりどころか、全然覚えてないよね？

兄 それなりには覚えてるって。

妹 じゃあ覚えてること言ってみてよ。

兄 だから、夏休みに、アメリカ行ったんだよね。

妹 なにをしに？

兄 …ロケット観に行ったんだよね。宇宙に行く。

妹 お。そうだよ。

兄 おじさんが乗ったやつ。

妹 そう。

兄 ほら覚えてる。

妹 それだけ？もつといろいろあったでしょ。情報が薄いんだよ。

兄 だって、あつという間じゃなかった？日帰りだったよね？

妹 日帰りなわけないでしょ。

兄 日帰りだったよ。

妹 飛行機だけで片道15時間はかかるよ？

兄 ギリ行けるよね？日帰り。

妹 いけないよ。どういう計算だよ。

兄 俺、数学は苦手だったからさ！。

妹 ねえ、得意科目はあるの？さっきから、苦手科目ばかり出てくるけどさ。

兄 でもさ。

妹 なに？

兄 懐かしいよね！。

妹 兄ちゃんは、懐かしがる資格ないよ。

兄 え？

妹 全然覚えてない人は、あの夏を懐かしがる資格ない。

兄 いいじゃん、懐かしがらせてよ。

妹 いやいや。

兄 たしかに覚えてないよ。自分でもビックリするくらい覚えてない。さっきまで適当に話してた。

妹 適当だったのかよ。

兄 しょうがないよね、当時は、あんまり興味がなかったと思うんだよ。

妹 なんで？

兄 だって、中2だよ？

妹 中2の男の子なんか一番興味あるでしょ、宇宙とか。

兄 おじさんが宇宙飛行士ってさ、レアだし、凄いなと思うんだけど。中2って言ったら、あれじゃん、ほら。

妹 なに？

兄 あれだよあれ。女性は胸が膨らみ、体に丸みをおびてくる時期。

妹 なに言ってるの？

兄 女性は胸が膨らみ、体に丸みをおびてくるさ。あれだよ。ほら。あれ。なんだっけ、ほら、女性は胸が膨らみ、体に丸みをおびてくるさ。

妹 妹に向かって、それを何回も言うのは変態だけだよ？

兄 あ、思い出した、思春期だ。

妹 どういう覚え方してんだよ。

兄 そんな時期だからさ、興味あるんだけど、興味ないふりしちゃうみたいなの。興味ないふりしてたら、本当に興味なくなっちゃうみたいなの。そういう感じだったんだよ。でも、懐かしいなあ、とは思うんだよ。

妹 えー？

兄 だからさ、もう1回、行こうと思っててさ。

妹 え？

兄 あんまり覚えてないから、もう1回行きたいんだよ。

妹 そう。

兄 でも、そうか。日帰りはできないのか。

妹 できないね。

兄 ま、いいか。それは。

妹 知らないけど。

兄 よし。じゃ、ちょっと行ってくるわ。

妹 え？

兄 その、なに？フロリダ？

妹 はあ？

兄 行ってくるよ。

妹 今から？

兄 うん。

妹 嘘でしょ？

兄 おまえも行くか？

妹 行かないよ。

兄 どうせ暇でしょ？

妹 暇じゃないよ。

兄 いや、暇に決まってる。

妹 暇じゃないって、なんで決めつけるんだよ。

兄 暇じゃなきゃ、小学校の卒業文集なんか読まないもん。

妹 文集のことはもう忘れてよ。

兄 せっかく誘ってあげてるのに。

妹 行けるわけないだろ。

兄 あっそ。まあいいや、じゃあ1人で行ってくるわ。

妹 違う違う、兄ちゃんも行けるわけないんだよ。そんな急に行けるところじゃないんだから。

兄 はあ？

妹 はあ？、じゃないよ。行けるわけないでしょ。

兄 じゃあさっきの話は嘘だったわけ？

妹 え？

兄 おばさんが車で迎えに来て、そのまま急に行った、みたいなこと言ってたじゃん。

妹 いやいやいや、それは、大人がいろいろしてたんでしょうよ。

兄 だったら、行けるじゃん。

妹 え？

兄 俺は、もう大人なんだから。

暗転。

引き続き家のダイニング。

兄 いやー。最高だったわー、軽井沢。

妹 どこ行ってんだよ。

兄 だから、軽井沢。ベタな観光地だしさ、今までずっと敬遠してたけど、行ってみたら人気があるのわかったわ。なんだかんだでいいところだもん。

妹 うん、なんで軽井沢だよ。

兄 本当、いいところだったんだよ。

妹 それはわかったけど。なんで？

兄 涼しそうだな、って思ったからだよ。実際、涼しかったよ。別荘買う人の気持ちわかったもん。俺も金持ちになったら別荘買って、毎年夏は軽井沢で過ごしたいね。そうは言っても太陽が照ってたら暑いのは暑いんだよ？でも、なんだろうね、木陰とに入ったら、涼しいんだよね。本当、いいところだよ。

妹 軽井沢の良さはもうわかったから。

兄 いいや、おまえはまだわかってない。

妹 わかったって。

兄 泊まったペンションがまたよくてさ、アットホームでさ、ひげの主人がその日に釣った魚の料理を出してくれるんだけど。面白い人なんだよ。「これは裏の川で釣ったイワナです。でも、ここでイワナを

食べたことは、秘密ですよ。」って言うから、「なんでですか？」って聞いたら。「イワナを食べたこととは言わないで。」だって。

妹 興味ないから。

兄 え？

妹 軽井沢の話、私、興味ない。あと、イワナの話、全然面白くない。

兄 面白さわかっている？イワナ、と、言わないで、がかかってんだよ？

妹 わかったうえで面白くないんだよ。

兄 へえ。

妹 そんなことよりさ。

兄 ん？

妹 あのさ。

兄 なに？

妹 フロリダ行ったんじゃなかったのかよ。

兄 フロリダ行ったんじゃなかったんだよ。

妹 だから、なんで？

兄 だって現実的に無理だろ？

妹 いまさらそれ言う？私は最初からそう言ってたよ。

兄 軽井沢行く前にさ。

妹 なに？

兄 成田空港までは行ったんだよ。

妹 そこまでは行ったのかよ。

兄 飛行機の当日券って凄く高いのな。

妹 そりゃそうだよ。

兄 しかも、ESTAっていうのを申請して認証されてないとアメリカに入国できないらしくてさ。

妹 そうなんだ。ほら、やっぱり急には行けないんじゃないんじゃん。

兄 でも申請すれば3日以内には認証されるらしいから、当日いきなり行くのは無理だけど、3日前に決めれば行けるってことはわかったんだよ。

妹 あ、そうなんだ、でも、普通はそれでも何か月前から決めるんだけどね。

兄 だから、今週中に行くことはできるんだけど、まあ行かないことにしたのね。

妹 そのほうが無難だよ。あのまま行っても、現地で野垂れ死にしていただけだよ、きつと。

兄 そんなことはねえよ。

妹 そんなことはあるよ。兄ちゃん英語喋れないんだから。

試し読みしていただけるのはここまでです。

この続きは商品をご購入の上ご覧下さい。

夏休みの思い出 ～ケープカナベラル編～（おためしサンプル）

2017年11月17日 初版発行

著 者 関村俊介 © 2017年

発行者 石村寛之

発行所 有限会社レトロインク

〒181-0001 東京都三鷹市井の頭4-26-7

電話 0422-24-9529
